



特 別
~ 13
4309
1



No. 94
90

第一六八六號
三 四 行 三 六 番
五 冊 一 番

源平歌

源平歌
卷之十
源平歌

源平歌

秀歌の巻と一首に終言を、
志を新し、或春の心懸、
題を居て、口とわけ、
寤眠の種瓜、
好人、

寛延四丁

末の 初春

作者曰

瑞笑



八文字

其笑



優源平秋囊

巻之卷

目録

第一 勝色刀居る、赤穂籠と、大平治物語

治の時代、小太公本、源平住、源氏を

不意に、余と信、頼朝、車、

よろし、

才二 廊色いし 御枕は 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

武藏 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

人のやと 奥の徳 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

才三 月次の方 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

一 勝色いし 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光

兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光 兼光





丹後と抽ぐりつるるらりうりうりつるれば非礼をうけ給ふと
と申せども付師の法からんをさかすやいふは強敵とて一隊の
さうれりくを付討せしむる所の首とて六条川原の幕本にさうし
あまこのろきり付せられ又へを尋せしむるといふは保良の信を
さう佐頼の信のゆかりなりきりさうり石も後をれせ保乃
抽きたるのぶく咽とてそれ熱くさうりさうり中らめていふと
ぬの血のゆきと置のけり千さらんかけつう出たるとは敵送の信
に保良乃不のけりえつと置とてその平家の武威とて信西
をささんとけくまれたるうと女うね家の新者式部をたれ林と
けくさうりすと内法せしむるが式部をたれさうり平家の大酒
あまのけり。二門あく船恩とさうりさうり信西の信とて中く同い
致らう。そのとけは信西が信と信西が信と信西が信と信西が信と

うけ給ふといふくちうと保良のゆきとて事の中をれとさうり
西定三層の敵敵の武勇のゆきとて信西の信とて信西の信と
さくね敵敵に他は保良の信とて信西の信とて信西の信と
わじりさうりさうり三層さうりさうりさうりさうりさうり
糧食を度り。信西の信とて信西の信とて信西の信と
持ゆと。信西の信とて信西の信とて信西の信と
出あらず。他は乃二千家又進はさうりさうりさうりさうり
信西の信とて信西の信とて信西の信とて信西の信と
けりさうり信西の信とて信西の信とて信西の信と
とさうりさうり信西の信とて信西の信とて信西の信と
ぬの信とて信西の信とて信西の信とて信西の信と
計とてさうり信西の信とて信西の信とて信西の信と



既

此の書の事

此の書は...

舞地れらるる...

道成寺伎柙

全部五卷

美

此の書は...

開宗算法

撰者尾陽 葛谷實順 全部二卷

右二色と... 少...



一
龜

